佐渡米通信

こめ～る

2026年　2　月号

発行日:2026年2月
発行：佐渡農業協同組合　担当：総務部企画総務課　駒形（葵）
jasadosoumu02@snow.ocn.ne.jp

令和8年度 主食用米作付目安と生産調整

令和8年産の主食用米の生産目安となる作付面積が佐渡市農業再生協議会（佐渡市、JA佐渡、農業委員会、土地改良区、農業法人、生産者などで構成されている）より発表されました。JA佐渡管内での作付け面積は、前年度よりも8.6%増えて5,814.8haとなりました。この作付け面積は、市場の需要に応じた米の出荷量から割り出しています。JA佐渡では1月末に米生産者への周知を行い、この数値をもとに需要に応じた生産量を確保出来るように取り組みます。

令和7年産米の出荷状況は昨年の10月下旬時点では停滞気味でしたが、11月上旬から例年通りの出荷の流れに回復しました。冬場の欠航による遅延の発生がないよう、天候を配慮した出荷対応を行って参ります。

カントリーエレベーターからお米を出荷する様子

令和7年産米		令和8年産米		前年産比	
目標面積（ha）	作付率（%）	目標面積（ha）	作付率（%）	面積（ha）	作付率（%）
5,106.3	69.3	5,814.8	77.9	708.5	8.6

佐渡の米農家さんにインタビュー

羽茂大崎地区の伊藤竜太郎さんにインタビューをさせて頂きました。伊藤さんは、2015年に佐渡に移住し農園みづちを立ち上げ、朱鷺と暮らす郷認証コシヒカリ、無農薬無化学肥料栽培米（無無栽培米）、古代米、わら用稲などを作っています。大学時代に屋敷林調査のために佐渡を訪れた際に、佐渡の農村風景を守りたいと思ったことから移住を決めたそうです。新規就農する際に機械の初期投資や田んぼを借りるところで断念してしまうことが多い中、伊藤さんは移住者の受け入れに親身になってくれる方と出会い、その人を通じて田んぼや機械を貸してもらうことが出来たそうです。今では、コンバインや田植え機などの農業機械を自身で揃え、地域の方たちから田んぼを任され4haを耕作しているそうです。無無栽培米はとても手間がかかるうえに収量が半分になることもあるそうですが、味が美味しいので赤字でも作り続けているとのことでした。伊藤さんが自身で販売されるお米「てんてこ米」には、環境省が発行している「トキのかわら版」を一緒に同梱しているそうなのですが、ある時、発送準備をしていた際にトキの優優（ゆうゆう）が26歳で亡くなった記事を目にし、大きな衝撃を受けたそうです。伊藤さんが小学生の修学旅行で佐渡を訪れた際にトキの優優のぬいぐるみをお土産で購入し、とても気に入っていたそうです。今でも大切にご実家で保管されているとのことでした。環境に配慮した米作りやトキを通した自然保護への情熱のルーツが伺えました。

里山を維持するためには、定期的な人の手による管理が必要です。そのためには、お米を作って田んぼを守るだけでなく地域全体の暮らしの豊かさや安全を守るといった活動も求められます。インタビュー中に集落の方と顔を合わせた際には、わら細工のお仕事の依頼を受けるなど、里山の活力の源である地域の人との確かな繋がりが伺え、これからもこの里山を守っていかれることが感じられました。

集落の方から依頼されて作ったわら細工
巻き方向が逆になると米俵の両端に当てる蓋

1月4日に集落の方たちと集まって
ハリキリ（しめ縄）を作る※1

大崎地区を見渡せる圃場を案内してくれた伊藤さん

ハリキリの馬の部分※2

集落の入口のハリキリを新しいものに張り替える※3

農園みづちHP

※1、2、3：写真提供　伊藤竜太郎さん

温湯消毒　春耕転　苗づくり　田植え　水管理　中干し　穂肥　稲刈り　秋耕転　ふゆみずたんぼ

facebook　instagram　JASADOTANBO